

女性市長大いに語る

～暮らしの満足度を高めるために～



かなこ
やまだ加奈子
きた
北区長(東京都)



ふじた あけみ
藤田明美
かも
加茂市長(新潟県)



司会・コーディネーター
そめ やきぬよ
染谷絹代
しまだ
島田市長(静岡県)



おおさかのぶこ
逢坂伸子
だいどう
大東市長(大阪府)



さとう みと
佐藤弥斗
ざま
座間市長(神奈川県)



人口減少や少子高齢化が進展し、地域課題が多様化・複雑化する中、市長の役割はより重要性を増しています。中でも、女性ならではの発想力や行動力を生かし、市民が暮らしやすいまちづくりを推進する女性市長への期待が高まっています。

女性活躍をけん引する都市のリーダーとして、どのようなビジョンを描き、まちづくりを進めていくのか、また、行政の長として、地域課題の解決を図っていくのか注目が集まっています。

座談会では、藤田・加茂市長、やまだ・北区長、佐藤・座間市長、逢坂・大東市長にお集まりいただき、市長としてのやりがい、中長期を見据えた持続可能な行財政運営の在り方、子育て支援施策、今後の展望などについて、幅広く語っていただきました。

(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)

市長としてやりがいを感じた出来事

染谷 本日は女性市長の皆さんにお集まりいただきしました。初めに自己紹介を兼ねて、市長としてやりがいを感じたことなどについて、お聞きしたいと思います。まず私が口火を切りたいと思います。

私は市長になって4期目、13年目に入ったところですが。子育て支援はもちろんですが、妊娠期から子育て期にかけて担当保健師が切れ目なくお母さんに寄り添う「島田市版ネウボラ」、赤

ちゃんが生まれたお母さんのための講座の開設など、「親育て」に向けた施策も積極的に進めてきました。

また、現在は社会構造が大きく変わる転換期です。その観点から、島田市を未来につなぐ3大戦略として、「循環型社会」「縮充」「DX」を柱に、持続可能なまちづくりも進めてきました。中でも、縮みながら充実していく「縮充」を戦略の一つに掲げた際には、「後ろ向きなことを言うな」との批判の声も聞かれましたが、進展する人口減少に即して、本来に必要な施設・事業に資源を集中させるなど、量から質へと、まちづくりの転換を進めてきました。

先日、市役所近くの横断歩道で、小学生の男の子に「市長、尊敬しています。がんばってください」と声を掛けられました。イベントに出席したときなどにも、市民の皆さんから声を掛けていただいています。本当にありがたいことです。市長という職務は、24時間365日、気を張り詰めっぱなしですが、こうした市民の皆さんからの励ましが、私の一番のやりがいになっています。

藤田 私は障がいがある方々を取り巻く環境や子どもたちの教育環境を改善したい、住みよいまちにしていきたいとの思いで、市議会議員になりました。しかし、なかなか関連の予算がつかず、市議を1期で辞め、意を決して市長選に出馬しました。今は市長就任から約6年半がたち、2期目の折り返しを過ぎたところです。

思い返すと、市長選出馬を決めた当時の財政

調整基金の残高はたったの87万円。総合計画も四半世紀にわたり策定されてきませんでした。文字通り、何もないところからのスタートです。まずは、財政健全化に努めた結果、今では目先の資金繰りに困ることはなくなりました。

現在の最も大きな課題は、公共施設の老朽化対策です。持続可能な行財政運営を進めるためにも、施設の再編は欠かせません。現在、「公共施設再編アクションプラン(案)」を基に、100回を目標として住民説明会を重ねているところですが、先日、うれしい出来事がありました。説明会に参加されたある高齢の女性の方が「本日のお話をうかがって、希望を持ちました。長生きしたくなりました」とおっしゃったのです。公共施設の再編はやむを得ないとしても、必要な施設



気を張り詰める日々の中で
市民の皆さんからの励ましが
私の一番のやりがい
になっています。



染谷 絹代
島田市市長(静岡県)

にはしっかりと投資をして、より使い勝手のよいものにしていく。そうした私の説明に賛同し、希望を感じてくださったことに喜びを感じました。
やまだ 私は区議会議員を4期、都議会議員を2期務めた後に、「みんなで創る。新時代！」を掲げ区長に就任しました。七つの主要政策を示し、各事業をスピード感をもって推進していま

すが、その進めていく基盤として、区民に寄り添った区役所となるために大切な業務改善や職員の意識改革に着手しました。

区民からご指摘をいただく「縦割り」をなくするため、「しごと連携担当室」を新設し、庁内連携や公民連携を推進しています。また業務負担軽減と区民サービスに直結するDX化に向け「北区デジタル推進条例」制定を柱に実効性のある取り組み、また各分野での外部人材の活用を推進し、職員のスキルアップと区民サービス向上につなげています。職員の意識改革では健康経営を打ち出し、職員自らの意欲と活力を最大化するために、「区長へのはがき職員版」で直接意見が言える機会、また職員自らの意見や取り組みで環境をつくる活動のプロジェクトチームを立ち上げています。その中で、職員から「こうした制度を設けてくれてうれしいです」「新区長の下で、区役所が動き出したのを感じます」といった言葉をもらったときには、私自身もやる気が湧いてきましたし、うれしさも感じました。そして現場主義の区長として地域を細かく歩く中で区民の皆さまからも区役所が変わってきた、区が明るくなった、毎月の区長記者会見を見て、区が行っていることを知る機会が増えたなどお言葉をもらった時は区の思いが伝わっていることに喜びを感じています。

ところで今日は、北区のブランディングロゴが入ったTシャツを着てきました。区民や事業者など、関係者みんなで力を合わせ、ブランディングメッセージの「きたいを超える 東京北

区」を実現していくために取り組んでいます。どんな区長が先頭に立って発信していきたいと思っています。

逢坂 大東市は大都市・大阪市に隣接しながら、

いい意味でのおせっかい焼きが多く、人のつながりが濃密に残っている地域です。歴史ある「だんじりまつり」の保存会も地区別に残っていますし、消防団も活発に活動しています。私は大東市出身ではありませんが、外から来た人間だからこそ、こうした地域の魅力がよく見えます。

私は大東市の職員として34年間勤めてきました。福祉や健康分野の勤務が長く、市民の皆さま



「子育て」の観点から、母親を対象にした講座を開設。赤ちゃんも一緒に参加できる(島田市)



子どもも大人も
誰もがその人らしさを生かして
暮らしていけるまちを
つくっていきたいです。

藤田 明美
加茂市長(新潟県)

んと協力しながら、いろいろな事業を進めてきました。職員時代に市民の皆さんに育てていただきましたので、そのお返しをしたいと、市長選に立候補させていただきました。

私のように、長年、市民の皆さんと共に仕事をしてきた一市役所の職員が市長に就いた例は、大東市では過去にありません。職員時代と

変わらず、今でもスーパードレジに並ぶ私に、市民の皆さんも親近感を抱いてくださっているみたいです。また、これまで市政に参画する機会がなかったものの、私が市長に就任して以来、まちづくりや地域の出来事を、自分ごととして考えるようになった。そのようにおっしゃる子育て世代の方々、女性の皆さんも増えてきました。そのことを私は一番うれしく感じています。

佐藤 私は4期16年、市議会議員として、市民の皆さんと連携してまちづくりを進めてきました。もっと市民の皆さんとまちづくりをしたい。その思いが高じ、市長選に立候補しました。

市長に就任後、待機児童の解消、中学校給食の全員喫食に向けて、今後の方向性を検討するとともに、市民とのコミュニケーション強化に向けて、市LINE公式アカウントも立ち上げました。人口は約13万人のまちですが、登録者は10万人以上。情報発信はもとより、これまで課題だった市民アンケートも容易に行えるようになり、市民の皆さんのご意見の把握も進みました。

老朽化した公共施設、とりわけ学校施設の適正配置も重要な課題です。児童・生徒数については、昭和58年のピーク時に比べて、現在は半数程度に減少する中、教育委員会において、将来を見据えた学校の適正規模・適正配置の検討を続け、令和7年10月に、「座間市学校再編計画(骨子案)」を作成しました。

市議会議員時代は、市役所に赴くときも、買



加茂市公共施設再編アクションプラン(案)地区説明会の様子(加茂市)

い物に行くときも、自転車にのほりを立てて移動していたものです。市長就任後、セキュリティ上の問題から普段は差し控えていますが、そんな私を市民の皆さんも身近に感じてくださっていると聞きます。市民の皆さんから「いつもありがとうございます」と言っていたくださきが、何よりうれしいです。

持続可能な行政運営に向けて

染谷 市民の皆さんが、各市長を身近に感じていらつしやることがよく分かりました。

先ほど申し上げたように、今、社会は大きな

「区民のための行政」を 徹底していくためにも 職員の意識改革に 取り組みました。



やまだ 加奈子
北区長(東京都)

転換期にあります。かつては、新しい市長が就任すること、まちの拡大、発展への期待が、市民の皆さんからも向けられていたと思います。しかし、いよいよそうはいかなくなりました。老朽化した公共施設への対応が迫っている中で、そこに人口減少の問題も重なってききました。拡大路線が当たり前だった高度経済成長期とは逆の展開になっています。

では、各市長はこうした状況にどう立ち向かって、市民の暮らしの満足度を高めようと思われているのか、お聞きしたいと思います。

藤田 加茂市では1970年代から1980年代にかけて、多くの公共施設が整備されました。これまで適切なメンテナンスがされてこなかったこともあり、一層、老朽化が進んでいます。加えて、人口減少も進行しています。この傾向は、今後とも変えられないでしょう。

こうした状況の中で、何が問題となっているかといえば、高度経済成長期の基準に合わせたインフラの整備や建て替えを今後も続けてしまうことではないでしょうか。そうすれば、無理が生じてしまうのは明らかです。むしろ、人口減少に合わせた持続可能なシステムに変えて、それまで公共施設に要していた経費を別の市民サービスに振り向けていくことができれば、市民の暮らしの満足度は向上するのではないかと思います。

逢坂 大東市はこれまでの市政運営の結果、相当な数の市営住宅を抱えています。人口減少が進む中、これまでと同じように、更新を迎えるたびに建て替えを進められる時代ではありません。そこで、大東市では市の出資の下で設立したまちづくり会社などと連携して、市営住宅の跡地に、民間賃貸住宅、商業施設を整備し、それに合わせて都市公園をリニューアルする「北条まちづくりプロジェクト」を推進しました。市はその民間賃貸住宅を市営住宅として20年間、借り上げる方針にしています。建設費に国庫補



ファンと共に「きたいを超える」北区シティブランディング戦略発表会(北区)

助金を活用していないこともあり、デザイン性の高い建物建設も可能で、大阪市にあったアパレルメーカーの本社誘致も実現しました。エリアの魅力も高まり、連日、多くの親子連れが集うようになり、路線価も上がりました。さらに、周辺地域に子育て世代も流入し、子どもの数が増えるなど、大きな成果が上がっています。

やまだ 北区でも公共施設などについて、将来的な人口減少や人口構造の変化などによる利用・需要の変化を予測し、長期的な視点で総合的・計画的にマネジメントしていくための基本的な方針「公共施設等総合管理計画」を策定し、



「地域とともにある学校」を中心として、まちづくりを展開していきたいと考えています。

佐藤 弥斗
座間市長(神奈川県)

改修・改築などを進めています。既に、施設全体の4割を超える学校施設の統廃合が終了し、中学校については全て改修・改築が終わり、小学校は2年に1校ペースでリノベーションや改築などを実施しています。また、北区は東京都の中で3番目に都営住宅が多い自治体ですが、この都営住宅の建て替え時や、まちづくりの際に国有地や都有地をうまく生かして、区有施設

単体の改修・改築だけではなく、複数の公共施設の合築・多機能化を推進しています。特に現在、区内の四つの主要駅周辺で再開発が行われていて、このタイミングをとらえて施設リニューアルを行い、区民の利便性向上とエリアの魅力を高めていきたいと考えています。

佐藤 座間市では、学校再編に伴い、学校を中心とした地域コミュニティの再構築も図ってきたいと考えています。その背景にあるのが、自治会の加入率の低下です。年々、加入率は低下傾向にありましたが、今や30%台にまで落ち込みました。年齢層の若い市民の皆さんの中には、そもそも自治会の存在を知らない、入会の仕方が分からない、という方も少なくありません。そうした中でも、市民と地域の接点の一つとして、学校がその役割を担っているものと考えています。子育て世代であれば、お子さんは学校に通いますし、コミュニティスクールや放課後子ども教室も展開しています。

座間市の自治会は、規模が小さく、数が多いという特徴があります。学校再編と合わせて自治会の集約を進め、ゆくゆくは「地域とともにある学校」を中心として、まちづくりを展開していきたいと考えています。

藤田 学校再編に関して言えば、加茂市では、子どもの減少に合わせて、今後、5校あった中学校を1校に、6校あった小学校を2校に再編していく予定です。地域に学校がなくなる中で、どのようにコミュニティの強化を図っていくか、新たな課題も生まれています。地域コミュニ

ティを強化する担当を置くなど、対策を考えていきたいです。

社会全体で進める子育て支援

染谷 お話をお聞きして、皆さんには共通の視点があると感じました。それは、10年先、20年先のまちの未来をしっかり見据え、そのために今、何を選択すべきなのかを考えて、市政運営を進めていこうという事です。財政問題や職員育成、市民サービスの在り方など、さまざまな課題がありますが、中長期的な視点を持ちながら、トータルで判断して、バランス



「座間市学校再編計画(骨子案)」の作成に伴う地域の皆さんへ向けた説明会の様子(座間市)

職員時代に市民の
皆さんに育てていただいた
お返しをしたいと
市長選に立候補させて
いただきました。



逢坂 伸子
大東市長(大阪府)

よく課題解決に向けた施策を進めていかれてい
ると感じました。

現在、子どもの数が激減しています。各市で
はどのような手だてを講じて、子育て支援など
の施策を進めていらっしゃるのか、この点につ
いてもお聞きしたいと思います。

逢坂 市長就任後、すぐに市立小中学校の給食
費完全無償化を実現しました。物価高騰が進む

中、特に子育て世代にそのしわ寄せがいつてい
ると感じていたからです。市長選の選挙公約に
も掲げていたものですが、実現したことで、
多くの保護者に喜んでいただきました。

佐藤 今の若いお母さん方を見ていると、産後
ケアの重要性が高まっていると感じます。私の
場合は、義理の母親がとても面倒見が良く、手
厚くサポートしてもらいましたが、今、私が娘
の面倒を見られるかといえば、それはかないま
せん。高齢になっても、長時間働いている人は
多くいらっしゃると思いますから、同様のご家庭はた
くさんあると思います。そう考えると、公共
サービスとして、産後ケア事業を進めることが
大切になってきます。

ただ、座間市内に産院は1院しかありません。
当然、市内のお母さん方は、近隣市の産院も利
用されます。事業の実施にあたっては、近隣市
の産院等にもご協力いただくことで産後ケアの
拡充を実現することができました。

やまだ 核家族化が進展している中、北区では
地域社会全体で子どもを見守る仕組みづくりに
注力してきました。まず「北区子どもの権利と
幸せに関する条例」施行し、事業を推進してき
ました。例えば産後ケア事業は、「アウトリー
チ型」開始などの充実や、乳幼児期の親子の居
場所づくりとして児童館に、小学生が利用しな
い時間帯には、開放する取り組み、駅の近くに
民設子育て広場を開設してきました。また、充
実した相談体制の構築に向けて、全ての児童館
に「子どもなんでも窓口」を設けました。子ども



エリアの魅力向上、にぎわいの創出につながった「北条まちづくりプロジェクト」(大東市)

はもちろん、大人でも高齢者でも、子どもに関
する相談であれば、何でも応じる身近な相談窓
口です。小中学生へは1人1台端末トップ画面
に相談につながるアプリを配置、また不登校対
策にも注力し、校内別室教室や校外別室として
児童館と地域の大学に設置、また外に出ること
が難しい子ども向けにバーチャル空間に学びの
場「バーチャル・ルーム『ステラ』」を設置し、ア
バターを介して他者とながら取り組みも始
め、学校の内外に不登校の子どもたちの居場所
を確保しています。

藤田 相談体制は非常に重要ですね。加茂市に

は、これまで子育てに関する相談場所の周知が徹底できておらず、どこに相談していいのかわからないという声も聞かれていましたので、相談先を分かりやすくお示しするようにしました。また、民間会社と連携して、スマートフォンから産婦人科医・助産師・小児科医に相談できる「産婦人科・小児科オンライン相談」も始めました。さらに、教育支援センターに臨床心理士・社会福祉士などの資格を持つ職員を常駐させるなど、不登校対策も強化しています。

わがまちの未来ビジョン

染谷 最後に、未来へ向けてのビジョンとして、わがまちをこんなふうにしていきたいという市長の思いをお聞かせいただきたいと思います。

逢坂 次の世代に、負のレガシーを残さない。これは、おれずにやっていきたいですね。また、今、大東市で生まれたお子さんが、成人になり、高齢になるまで、「このまちがいいな」と思って住み続けられる、そんなまちを市民の皆さんと共につくっていきたいと考えています。そのために、目の前にある課題だけでなく、未来を見据えた施策にもしっかりと取り組んでいきたいです。

佐藤 子どもたちが誇れるまちにしていきたい。これは私がずっと持ち続けている思いです。これまで進めてきた施策の推進はもちろんのこと、子どもたちが座間市に生まれて良かった、住んでよかったと思ってもらえるようなまちづくりにも、一層力を尽くしていきたいと考えて

おり、例えば、中学校でも仲間と一緒に温かい給食を楽しめるような取り組みも検討していきたいと考えています。

藤田 次の市長がどのような立場の人であつても、良い状態で加茂市を渡していきたいと考えています。そのため、今起こっている課題はもちろんです。また起こっていない潜在的な課題についても、将来を予測してなるべく私の代で解決できる、またはその種まきをしていきたいです。

また、私が政治の世界に入るきっかけの一つとなった分野に障がいや不登校など困難さを抱えている方々の支援があります。誰もがよいところ、才能を持っています。それを生かせるような仕組みづくりも大切です。子どもも大人も含めて、誰もがその人らしさを生かして暮らしていけるまちをつくっていききたいです。

やまだ 私は「区民のための行政」を徹底したいです。当たり前のことのように聞こえますが、実際には、行政の視点やルールで物事を判断し、進められることが多いように感じます。区民が何を求めているのか、それをしっかりと把握し、その求めに応じた行政運営を進める。さらに、今後、社会環境の変更に迅速に対応した政策を立案・提案し、区民の賛同を得ながら、区民視点の未来を一緒に切り開いていく。職員一人一人がそうした姿勢を持って、政策づくりに取り組む区役所組織ができれば、より豊かさを感じられる北区になると思います。「きたいを超える東京北区」を区民・職員一丸となって創ってまいります。

染谷 お話をお聞きして、各市市長は、市長という職務に誇りややりがいを感じながら、明確なビジョンを持って、まちづくりを進めていらっしゃる方がよく分かりました。さらに、わがまちをよりよい状態にして、次の時代に渡していきたいとの思いにも共感を覚えました。本日はこうした意見交換の時間を持つことができ、大変うれしく思いました。これからも、それぞれのビジョンの実現に向けて、市政運営に力を尽くしてまいります。本日はありがとうございました。

(令和7年11月13日、全国都市会館にて開催)

本コーナーは隔月掲載となります。次回は3月号に掲載予定です。

